



外来生物って、 なあに？

外来生物って？

わたしたち人間の活動で、もともと
いなかった地域に連れてこられたり、
やってきた動物や植物のことを外来
生物といいます。

どんな生き物が外来生物なの？

外来生物には海外から国内に持ち込まれたものや、国内でも本来分布しない地域に
他の地域から持ち込まれたものもあり、いろいろな問題を引き起こしています。

<p>ヌートリア 大きなドブネズミのような体つきで、流れの緩やかな河川、湖、沼などに生息します。夜行性で土手や堤防などに巣穴を掘ります。水生植物に対する食害、巣穴による堤防・水田のあぜ・ため池の破壊、農業被害などが発生しています。世界各地で毛皮用に飼育していたものを逃がしたために増えたと思われています。</p>	<p>アライグマ ペットとして輸入され野生化しました。幼少期はかわいく人に懐きますが、成体になると気性が荒くなり、逃亡したり、餌いまが捨てるなどしたため、日本での個体数が増加しました。地域固有の生態系を破壊したり、農作物の被害が問題となっています。</p>	<p>ウシガエル 貪欲で捕食性が強く、口に入る大きさであれば、昆虫、甲殻類、魚類などのほとんどの動物が餌となります。モリアオガエルなど本来種のカエルやヘビ、サワガニなどが見られなくなったとの報告があります。</p>	<p>セアカゴケグモ 人の生活環境に巣を作り生息しています。刺されたり、かまれたりすると局所の痛みや発熱があり、リンパ節が腫れます。港湾地域で多く発見されており、コンテナなどに付着して侵入してきた可能性が高く、人間によって生息域が広範囲に拡大されたものと考えられています。</p>
<p>カミツキガメ きわめて長寿で、繁殖能力が高く、1回に通常20~30個、多いときには100個以上の卵を産むことがあります。攻撃的で、かみつかれたり、引っかかれる被害が出ています。ペット用に大量に安価で販売されていて、飼育は容易ですが、大型に成長し攻撃的になるため、飽きられたりして捨てられてきたことで増えました。</p>	<p>オオクチバス 上あごが眼の後ろまであり、タナゴ、メダカ、ハゼなどの在来魚を捕食します。メス一匹当たり2,000~145,000個の卵を持ち、非常に繁殖力があります。釣魚として人気があり、各地で意図的な放流も行われてきました。世界規模で猛威を振るっている侵略種です。</p>	<p>オオキンケイギク 北アメリカ原産のキク科の多年草で、道ばた、河川敷、線路際、海岸などに生育しています。観賞用、緑化用に導入され、最近急速に分布を広げ、ほぼ日本全域で見られるようになりました。それとともに河川敷固有の植物が減少しています。</p>	<p>セイタカアワダチソウ キク科の多年草で、北アメリカ原産の外来種です。高さが3m近くにもなり10月から11月頃、濃い黄色の小さい花をたくさん付けます。繁殖力が強く、根から毒素を出すため、ススキなどの在来種の植物を枯らします。蜂蜜を採るために輸入されたとも、生け花や観賞のために輸入されたとも言われています。セイタカアワダチソウに寄生する虫が、トマト、ナス、サツマイモなどの農作物を枯らす被害も出ています。</p>

どんな被害があるの？

まず、自然や生態系を壊します。在来種を食べたり、エサを横取りして絶滅させたり、在来種との雑種を作ったりすることで、土地本来の自然が失われます。

次に、人間への健康被害です。毒を持っていたり、かむことで私たちの生命や体に危険を及ぼすことがあります。

さらに、野菜や果物、魚などを食い荒らしたり、田畑を踏み荒らすなど、農林水産業の被害が出ています。

このほか、家屋や文化財を壊したり、自然災害の被害を大きくすることもあります。



どうやって持ち込まれたの？

ペットや観賞用、農作物や家畜として、また荷物に紛れ込んで外国から持ち込まれる場合などがあります。外来生物のうち、「特定外来生物」として国が指定したものについては、飼育・栽培、運搬、保管、野外への放しなどの取り扱いは国の法律で厳しく規制されています。

外来生物を減らすには、地域での地道な活動が重要です。私たちにできることを考えてみましょう。

絶滅危惧種とは？

地球上には数多くの生物が生息しています。しかし約6500万年前の白亜紀の終わりに生物の大絶滅がありました。そして現在もまた大絶滅の時代だと言われています。その原因は私たち人間の文明活動によるものなのです。

その要因の一つとして、外来生物による生態系の影響があります。三方湖ではブルーギルの増加が在来魚の繁殖にダメージを与え、中池見湿原ではアメリカザリガニが希少植物や水生昆虫を食べることで生態系に影響を及ぼしています。

中池見でのアメリカザリガニ防除

ラムサール条約湿地に登録されている敦賀市中池見湿地は、生物多様性に富み約3000種の動植物が生息しています。しかし、アメリカザリガニの侵入で、トチカガミ・ヒツジグサなど希少な湿性植物に被害を与え、トンボのヤゴやゲンゴロウ類など水生昆虫の生息にも影響を及ぼしています。そこで中学生の社会体験活動や総合学習、小学生が参加する体験イベントなど市民参加でアメリカザリガニ防除活動が行われています。



(写真提供:中池見湿地)

福井県自然保護センター
〒912-0131
福井県大野市南六呂師169-11-2
TEL:0779-67-1655
FAX:0779-67-1656
http://fncc.pref.fukui.lg.jp/

六呂師高原の一角にある福井県自然保護センターでは、県内の自然についての展示や各種事業の実施、資料収集など、自然保護の普及活動を行っています。ホームページを検索して外来生物について調べてみましょう。

絶滅危惧種

ムササビ	ヤマネ	コノハズク	ブッポウソウ	ウスラ	サギソウ
トノサマガエル	ガムシ	アジメドジョウ	アカウミガメ	ニホンスッポン	キキョウ

※ここに挙げた絶滅危惧種の中には外来生物が絶滅のおそれとなる原因ではないものも含まれます。